

令和元年 9 月 1 9 日

取手市議会議長

入 江 洋 一 殿

建設経済常任委員会

委員長 岩 澤 信

委員会中間報告書

本委員会に付託の調査事件について、会議規則第 4 5 条の規定により、下記のとおり報告いたします。

記

- 1 調査事件名 ・市内若手農家との意見交換会で提言された要望・意見に関する当委員会所管事務
・令和元年第 1 回意見交換会時要望・意見に関する当委員会所管事務
- 2 調査の経過 令和元年 5 月 1 4 日， 6 月 1 2 日， 7 月 2 5 日， 9 月 1 1 日
- 3 意 見 別紙のとおり

【建設経済常任委員会】平成31年4月11日 市内若手農家との意見交換会（要望・意見）

項目	要望・意見	現状（執行部からの回答）	議論のポイント・余地	委員会で話し合われた内容
<p>新規就農 - 1</p>	<p>若手の新規就農者の受入は1人/年という状況。そこに目を向けるのは違うのではないか。</p> <p>●セカンドキャリアとして「農家」というルートを作ってみるのはどうか。</p> <p>●セカンドキャリアとして農家を希望する人の受け入れ態勢を整えるのはどうか。 ○新規またはセカンドキャリアとしての農業を希望する人の受け入れ態勢の現状はどうなっているのか。</p>	<p>就農希望者の受け入れ体制については、専門知識を要することから県農業改良普及センター等の関係機関と連携しながら就農相談などに当たっています。今後も積極的に取り組んでいきます。</p>	<p>新規就農だけではなく、普通にセカンドキャリアとして就農いただくためのバックアップ体制をHPなり、チラシにまとめるなりして周知・PRを行うべき。</p> <p>また、認定された研修施設が県央（主に水戸）にしかなく、新規就農に向けた研修期間を取手市近隣で過ごすことのできる体制づくりが急務。</p> <p>参考：つくば市新規就農者支援</p>	<p>【情報の発信】 農政課のHPに新規就農の情報の発信を制作中。新規就農者の募集・県へのリンクを張る。 【セカンドキャリアとしての農業】 高齢者の手助け（就農）も大事。定年退職した方が農業を営む。 バックアップ・体制づくりを考えている。 【新規就農者に対して】 取手に所縁の無い人が手を上げた場合でも、取手市民と同様にバックアップ。就農推奨。 新規就農者でなければ、農地法の関係で土地の借用は不可。借用可能であれば、農業委員会と協議してあっせんしていく。 新規就農者への支援の基準設定に関しては、今後検討。</p> <p>現在、県立の大学校との連携は直接のやりとりをしていない。大学のパンフレット配布はしている。そこに何人が参加したかについても把握していない。大学を卒業されて、土地などを探して野菜作りしてJA直売所に商品を納めているという方を含め、新規就農者に対しては県と農協と協力体制をとりながらバックアップを実施しているところ。至急HPを制作し、PR用のものを載せたい。</p> <p>国の補助を受けるには「県が認めた研修機関」か「先進的な農法を有する農家さん」で研修を受けなければならない。茨城県の研修機関は県央（農業大学校）と県西（園芸）にしかない。県西の県の研修機関との連携を図りつつ、取手市内に住んでいても農業を勉強できて、そのまま取手で新規就農できるように、取手市内で先進的な農法を有する農家さんと協議しながら、推進できるようにしたい。</p>

項目	要望・意見	現状（執行部からの回答）	議論のポイント・余地	委員会で話し合われた内容
新規就農 - 2	<p>稼げるビジネスモデルを見せてあげないと、新規就農は怖い。</p> <p>●新規就農者に対し、農業で稼げるビジネスモデルを見せることは可能か。 ○既に就農している若手農家の成功モデルを市としてHP・PR動画を作成してはどうか。</p>	<p>今後、市HPや広報誌などを活用した若手農業者を紹介する企画などを検討していきたい思います。</p>		<p>鹿児島県志布志市の事例：基準を明確にすると受入やすくなるのではないだろうか。 >基準につきましては先進地の事例を研究しながら検討。</p>
新規就農 - 3	<p>市場のニーズ（家庭環境含め）を捉え、どういう商品をつくるかが問われている。 情報収集を個人でやる必要がある。</p> <p>●情報提供をしたらどうか。 ○市場のニーズ（家庭環境を含め）等の情報を市としてどのように提供、または共有をしているか。</p>	<p>市では買い取り事業者と生産者との個別のマッチングを行った経緯はありますが、JA農産物直売所では販売や生産状況等をPOSシステムを用いて、どのような野菜をいつ作れば需要が高いのか等の情報を直販部会の会員にフィードバックしております。</p>		<p>品目別の売上など、非常に細かく分かるシステム。生産における活用価値は高い。農協が主体となって運用している。これから農協と協議していく。ただし個人情報が多く含まれているため、協議して、情報を出せる範囲で出していきたい。</p> <p>農協の直販部会が情報提供をしている。直販部会所属は100名超え。</p>

項目	要望・意見	現状（執行部からの回答）	議論のポイント・余地	委員会で話し合われた内容
新規就農 - 4	<p>レンコン農家が就農しているのを聞く。米を作らなくなったところの活用。地力も必要ないので参入しやすいのではないか。腰は痛めるし、収穫時期が真冬で嫌になるだろうか…。</p> <p>●レンコンによる新規就農募集をしてみてもは。</p> <p>○今取手にはない作物（市場になく需要があるもの）を作る可能性がある</p> <p>○市内でどんな作物が育っているかデータ化する。</p>	<p>取手にない作物を作る可能性につきましては、県農業改良普及センター、JA、先進農家等と協力しながら情報の収集及び提供を行って行きたいと考えます。また、JA農産物直売所では販売実績について、品目ごとのデータ化を行っています。</p>	<p>HPでの公開を検討してもらおう。</p>	<p>【市内で生産中の作物】</p> <p>情報を開示していただけないか。見せられる範囲が限られているが、農協と相談して提供させていただく。</p> <p>【新たな作物】</p> <p>ハーブを栽培している農家がいる。取手市内で新しい作物を作って、売っていただけるか、今後検討する。現在、一部の農家の間で何かできないか、特産品として広めていけないかという動きはある。農政課としてもブランド化・特産化を図れば、将来的に良いと考えている。</p> <p>・畑作は限られている。大規模に施設園芸をするという話はない。新たな地場産品をつくるということはないのか。</p> <p>>全体的には少ないが、一部の農家の間では何か農産品を進めていけないのかという議論はスタートしている。</p>
設備投資 - 1	<p>生産する商品にもよるが、ビニールハウスには多大なお金がかかる。</p> <p>●レンタルハウス等を用意することで、チャレンジしやすい環境を作ってみては。</p> <p>○設備等のレンタルができる環境を整備できない</p> <p>○簡易的ビニールハウスで収穫できる農作物があるか。</p>	<p>ハウスのレンタルができる環境整備につきましては、市農業公社の育苗施設や市内農家の使われなくなったハウスなど既存施設の活用を検討して行きたいと思えます。</p> <p>また、簡易的で無加温のビニールハウスであっても収穫時期を検討すれば、作付けできる品種は多くあると思えます。</p>	<p>HPで生産可能作物やどのような施設が必要（またその予算も）かのPRを行うべき。</p>	<p>簡易的なビニールハウスの活用については、今のところ、HPに乗せる予定はありません。</p>
設備投資 - 2	<p>農機具などの修繕費が百万円単位となり高額で厳しい。（ほか同意趣意見1名）</p> <p>●設備投資などに対して、補助金等は出せない</p> <p>○設備投資（修繕）に対しての補助金はあるのか。</p>	<p>農業機械や施設整備に対する国や県の補助メニューはございますが、制約が多く、対象が限られているため、利用するのは難しいと思われます。担い手などが利用しやすいものとしては、設備投資時の借入に対する利子補給制度がございます。</p>	<p>HP上でのリンク掲載を徹底すべき。</p>	

項目	要望・意見	現状（執行部からの回答）	議論のポイント・余地	委員会で話し合われた内容
販路 - 1	<p>守谷・つくば市では銀行の仲介による農地から販路までのマッチング制度がある。</p> <p>●取手市でもマッチング制度を用意したらどうか。</p> <p>○近隣自治体（守谷・つくば市）で行われている銀行仲介によるマッチング制度を取手市でも行えるか。</p>	<p>守谷市並びにつくば市の担当課に確認したところ、いずれも市では銀行仲介にマッチング制度は実施していないとの回答がありました。今後の研究課題とさせていただきます。</p>	<p>銀行・農協等とのネットワーク構築を目指すべき。</p>	<p>マッチング制度は重要と思います。今後、検討課題とします。</p>
販路 - 2	<p>四季折々の野菜が栽培できるいい土地。大消費地（東京）が近いので、販路も多い。</p> <p>●桑原地区の開発で地元野菜の販路が更に増えることを期待している。</p> <p>○桑原地区開発、更には東京圏に向けて、販路開拓をしていけるか。</p>	<p>桑原地区開発やちよだ市場などで地元産の野菜や米の販路拡大に努めていきたいと考えております。</p>		<p>農地の95%がお米。市内のトマトは「夢とりで」が一番人気として発売中。「トマトは取手の特産品なんだな」という認識をされている市民が多くなってきている。東京市場にもトマトを出していて、大変好評。</p> <p>お米やトマトが作られている。特にトマトはブランドだと言われている中で、いいものがいっぱいある。学校の給食の材料に取手産のものを入れるということについては？</p> <p>農政サイドとしては一つでも多く、地元の野菜を使ってもらうことは切実に願っていること。学務給食課・子育て支援課と話をしている。米粉は保育所のおやつ等に利用中。他にも、長ねぎなども使ってもらっている。一品でも市内産を増やすことを重要課題の一つとして考えている。</p>

項目	要望・意見	現状（執行部からの回答）	議論のポイント・余地	委員会で話し合われた内容
販路－3	<p>6次産業化はハードルが高い。加工施設も必要。</p> <p>●（世間で言われている）6次産業化への取り組みは難しいのではないか。</p> <p>○取手市内での6次産業化の可能性は。</p>	<p>6次産業化は生産から加工、販売、流通までを一手に担わなければならないので難しい面も多いのですが、それぞれの専門家が一体となって推進できれば、可能性は広がると思われます。</p>	<p>現状の市内でのチャレンジをどのように把握しているかを確認する。</p>	<p>一番大事なのは、農政課のほうで6次産業化について「何かできるものないか」「こういう加工品はどうか」ということを考えていかないと。農家の方へのも、販路・面積等の環境整備をするのは難しいので、行政側で指導してあげなければならない。農家だけで6次産業化するのは非常に難しいこと。強力にバックアップしていく。</p> <p>一つ特産品ができると販路拡大・六次産業化の組織等の話もでてくる。トマトは現状のままだと厳しい。お米だけと限定されるのも寂しい。何か違ったものを考えないと。担い手づくりも含め、情報を集めて取り組んでいくことが大事。</p> <p>トマトにつきましては農協の方で、5年前くらいから実験的にトマトジャム・ペースト・ジュースといった加工したものを直売所で販売している。</p> <p>6次産業化へのチャレンジ特集等、情報公開したらどうか。</p> <p>新規就農を始めとして、グレードアップを図りたい。</p>

項目	要望・意見	現状（執行部からの回答）	議論のポイント・余地	委員会で話し合われた内容
周辺環境 - 1	<p>(近隣住民が) ペットのフンが田畑に捨てられていることもある。</p> <p>●フン害への対策は。</p> <p>○イエローチョーク・フラッグ等の取り組みをしてみたいか。</p>	<p>市ではイエローチョーク作戦を平成30年度より推奨しており、すでに市内各所において取り組んでいただいています。フラッグについてはフラッグがゴミになってしまう恐れから推奨はしていません。</p>		
周辺環境 - 2	<p>家の周りが住宅街のため、作業をすると迷惑が掛かってしまう。</p> <p>乾燥機利用時の騒音、脱穀機利用時の稲の飛散</p> <p>○対策方法はあるか。</p>	<p>騒音の発生源に防音シートを張る、飛散防止にシートを張る等の対策を実施する。</p>		
周辺環境 - 3	<p>●「市街化区域」及び「市街化調整区域」内農業の税制は問題ではないか。</p> <p>○生産緑地、2022年問題に対して、市としての方針はどうなっているのか。</p>	<p>生産緑地2022年問題について、新たに創設された「特定生産緑地制度」の円滑な導入と適切な運用を図り、生産緑地の一斉大量解除による都市環境の悪化の防止に努めます。なお、事前に生産緑地所有者の意向の把握に努め、その意向を踏まえた都市農地保全の方策を検討して参ります。</p>		<p>生産緑地問題に関しては、都市計画課が担当。アンケートは都市計画課が今年度中に実施。</p> <p>生産緑地地区約120カ所。10年間延長したいという声は、農政課に直接意見は出ていない。</p> <p>生産緑地解除は都市計画課に買取り申出があった後、農業委員会に営農者のあっせん依頼が来て判断する流れ。農業委員会からのアクションは考えていない。</p> <p>宅地化されるという前提で都市計画に届け出が上がり始める。切り替わって若手が担っているケースも。担い手として継続するかしないかを中心としないと。農業ができる場所を見定めることができないと、農業を続けていくということにはならない。農政課・農業委員会と都市計画課の連携はとれているのか。</p> <p>現在のところ実施していない。</p>
周辺環境 - 4	<p>●耕地整理をしてほしい。</p> <p>○耕地整理をするための手順は。</p>	<p>耕地整理を実施するには、まず地権者や土地改良区等で十分な話し合いを行ない事業エリアや実施事業などの計画概要を策定し、事業参加資格者の3分の2以上の同意を得て、申請人から県へ事業申請をすることになります。</p>		

項目	要望・意見	現状（執行部からの回答）	議論のポイント・余地	委員会で話し合われた内容
高齢化 - 1	<p>就農者の高齢化による、耕作放棄地が拡大している。</p> <p>●何か対策は講じられないのか。</p> <p>○生涯現役ネットを利用して農作業のお手伝いをお願いできないか。</p> <p>○うつ病・生活習慣病の対策に農作業という運動を取り入れてみてはどうか。</p>	<p>生涯現役ネットを利用した農作業の手伝い等につきましては、今後、活用方法を検討していきたいと思っております。また、うつ病や生活習慣病の予防につきましては、市民農園の活用を検討したいと思います。</p>	<p>現在、とりで生涯現役ネットでは“家庭菜園のすすめ”から始まっているが、根本的な取手の農政の課題は米づくり（又は転作）の関係人口を増やしていくこと。早々に協議会内での議論を行い、地域課題に直結したシニア世代の活用策を図るべき。</p>	<p>【生涯現役ネット】</p> <p>連携については、生涯現役ネットの事務局サイドとコミュニケーションをとりながら実施中。農業公社との提携を図りながら連携できないか模索中。高齢化社会によって農業分野も労働力不足。高齢者層の力を生涯現役ネットを通じて活用できるよう、手法について研究中。</p> <p>生涯現役ネットは「高齢者の力を労働力、就労に結びつけられないか」という中で、介護、福祉等で自らのセカンドライフを充実していただける、そのきっかけを作る仕掛けができればという部分がある。その中に農業がある。高齢者の方が農業にかかわれる何か、手法などを研究しつつ、現在就農されている方のお力になれる部分があれば、田植え等の繁忙期に、元気な方や農業に関心のある方を労働力にできないか、手探りながら進めているところ。ブームとなっている家庭菜園の知識をさらに深めていただいて、その先に農業に携われるか。農業活性化につながればと検討中。</p> <p>農業体験をさせる機会を多くしないと、市民の人がどういうことをしているか分からない。農業公社を上手く活用できないか。藤代の農業環境の中心である農業公社の存在意義を高めるということも柱にして、新規就農者ばかりではなく、全ての農業の担い手ということを考えるためには必要。体験できる場所、そういうことを考えるきっかけとなる場所として提供することは大事。</p> <p>農業公社は設立から30年。情勢は設立当初から様変わりした。農業を体験することは一番大事と考えている。「農業って何をやってるんだ」という人が大半なので、体験は重要な部分。今後検討し、実施に向けていきたい。</p> <p>高齢者の働き方意識調査報告書（とりで生涯現役ネット実施）の結果では、希望する職種に「農業(2位)」、学びたいことに「農業知識(20%)」という回答も多い。この辺を生かせるようなセミナー・スクール・さらには就労につなげられる取り組みを考えている。農政課と協力して進めていく。</p>

項目	要望・意見	現状（執行部からの回答）	議論のポイント・余地	委員会で話し合われた内容
高齢化 - 2	<p>今後は省力化がさらに進んで、高齢者でも農作業できる環境ができるのではないかと。</p> <p>●働き方改革ではないが、主婦世代や高齢者を巻き込んだ農業も可能になっていくのではないかと。</p> <p>○取手市のスマート農業の現状は。</p> <p>○IT導入のための補助金を市で紹介してほしい。</p>	<p>取手市内におきましても担い手によるドローンの導入などが行われています。IT導入に関する県補助金がありますので、紹介していきたいと思います。</p>	<p>HP上での情報発信。</p> <p>新規就農・補助金関係情報・サポート体制について情報を一元化し、丁寧に情報を届け続ける姿勢が求められる。</p>	

無印:若手就農者からの意見、●:若手就農者からの要望・質問、○:●を踏まえて委員間で検討後、執行部への質疑

要望・意見:若手就農者からの要望・意見、現状:要望・意見に対する執行部からの回答

議論のポイント・余地:回答に対して疑問等思ったこと

委員会で話し合われた内容:7月25日の建設経済常任委員会で話し合われた内容をまとめたもの

【建設経済常任委員会】令和元年5月11日 市民との意見交換会（要望・意見）

	要望・意見	調査報告及び検討事項
道路 1	最近子どもを巻き込んだ交通事故が毎日のように報道されている。取手市としてどのような措置をとっているか？	<p>【その場での回答】</p> <p>通学路に関しては、小中学校から教育委員会へ通学路の危険箇所を挙げてもらい、学校、教育委員会、警察、児童委員等と現地確認を行い、危険度の高い箇所から順次、対応策を検討し改善しています。また、安全マップの配布やハード面の整備も行っています。</p> <p>【回答】</p> <p>上記のとおり、取手市交通安全プログラムに則り関係団体機関と連携し整備に努めております。なお、桜が丘小学校前の交差点については、ガードパイプ等の交通安全施設を設置いたします。</p>
道路 2	歩道などに高齢者が散歩中に腰を掛けることができるような椅子を設置してほしい。	<p>通常幅の一般の歩道には、通行に支障が生じる恐れがあるため、設置の許可は下りません。現在設置されている腰掛は、歩道の幅に十分な余裕がある場所に設置しています。こちらも、地域の皆様の声をまとめていただき、市政協力員を通して建設部へお届けいただきますようお願いいたします。</p>
道路 3	歩道の幅を広くしてほしい。	<p>道路の拡幅に関しては、地域の皆様の声をまとめていただき、市政協力員を通して道路建設課へお届けいただきますようお願いいたします。</p>
交通 1	高齢者の私は、自動車運転免許証を返納してしまうと、コミバスが不便であるため、出掛ける手段が無くなってしまいますので、返納したくても返納できないのが現状である。もっと福祉の充実を図ってほしい。例えば、デマンドバスやデマンドタクシー、チケットタクシーなど。	<p>コミュニティバスには、市内在住で70歳以上の高齢者に対し、3カ月3,000円で全7ルートが乗車可能となるシルバー割引を設けております。ご利用くださいますようお願いいたします。デマンドタクシーは、近隣自治体においても導入されてきていますが、予約が取りづらいといった問題点も発生していることから、他自治体の取り組み状況や費用対効果も含め、調査検討を進めていきたいと考えています。</p>

	要望・意見	調査報告及び検討事項
交通 2	中央タウンに住んでいるが、コミバスが取手駅方面へ買い物に行く場合、行きの際はありますが、帰りの便が少なく不便である。乗客がほとんど乗っていないバスもあり、路線の検討をしてほしい。	<p>【その場の回答】</p> <p>何年かに一度、定期的に見直しを図っている。なかなか難しい問題です。</p> <p>【回答】</p> <p>コミュニティバスは、鉄道や路線バスを補うことを目的に運行しております。中央タウンエリアは、他の地域に比べると路線バスの運行が充実しております。地域の足である公共交通は、利用することが路線や便数の維持に繋がっていくため、利用促進にもご協力をお願いいたします。</p>
交通 3	高齢者クラブでは大会などがある際、移動手段が無い場合コミュニティバスを利用するが乗り切れずスムーズに集合ができない。配慮してほしい。	<p>高齢者クラブの大会は毎回100名を優に超える参加者がいると聞いております。そのため、取手市市有バスで対応策を講じておりますが、まだご不便をおかけしているとのこと。コミュニティバスの増便を図れないかとのことですが、コミュニティバスと同等の車両は、他の車両に事故や故障が発生した際の代車として待機させておく必要があるため、増便のために使用することは困難と考えられます。</p> <p>※大会当日（H30年度は3回開催）のコミュニティバス増便は実施されておられません。</p>
取手 東西	<p>取手駅の東西口が別れてしまっている。不便。</p> <p>①JRに計画があるという噂があるが。</p> <p>②東口は無人になってしまった。駅に上る階段も急で大変。</p> <p>（奥さまが車いす。エレベーターのある、西口にいかなければならない。みどりの窓口で売っているジパング（割引切符）なども西口にいかないと買えない。）</p>	<p>【その場の回答】</p> <p>取手駅以外は橋上駅となっているが、取手は現時点で計画もない状況。</p> <p>①お金を払えばすぐにやってくれる。現在の計画は4案あるが、実現性のあるのは一つ。JR・国・取手それぞれ負担する必要も。10年前はJRとの協議をして、色々な意見があった。6年前くらいから議会も、一つの答えを出すべきという立場。これから整理をしなければならない。東西自由通路を実現しようという声もある。20億円以上のお金がかかる。</p> <p>②西口のエレベーターを使っただけならば。</p> <p>【回答】</p> <p>①東西自由通路の計画はございます。JR東日本（株）と継続協議を行っております。しかしながら、現在、取手市では、西口A街区の整備事業を最優先に進めており、事業の進行や財政状況を確認しながら長期的な視点で推進していく予定です。</p> <p>②取手駅バリアフリー整備は、3案ありましたが、現在1案を選択し協議を行っております。あくまでも、JR東日本（株）の事業スケジュールに則り進んでおりますが、予定では今年度中に設計業務を完了し、翌年度には工事に取り掛かると聞いております。</p>

	要望・意見	調査報告及び検討事項
産業 1	取手市は、取手市商工会へ助成金を出し、商工会の活性化を図ってほしい。また、M a t c h 事業を推進してほしい。	毎年、市から商工会に対して運営費の補助や、「とりで産業まつり」や「藤代商工祭」へのイベントに対する補助を行っております。 Match 事業については、現在、龍ヶ崎市との広域連携に対して補助を行っていますが、市の重点事業にも位置づけ、創業支援を通じて市内全体の産業活性化に繋がるよう推進しています。 また、とりで生涯現役ネットを窓口に、高齢者の起業支援を昨年12月からスタートしました。これからも地域の起業文化を振興する手立てを深めて参ります。
産業 2	ウェルネスプラザで、茨城県の特産物展を行ってほしい。銀座の茨城マルシェのように行なうことで、宣伝になる。	ウェルネスプラザ指定管理者等が、開催するイベントには、取手市特産による出店や、また県内屈指の菊水食品の納豆の販売などもありました。今後もイベントなどには、限られたスペースですが、商工会と連携し、少しでも多くの出店ができるよう働きかけていきたいと思っております。
産業 3	空き店舗等を有効活用し卓球場などの室内スポーツ場を増やしてほしい。	現在、空き店舗の活用施策として、「空き店舗活用補助制度」により、空き店舗への出店者に対して、改修費や家賃の一部を補助しております。ただし、業種については主に飲食や小売業などに限定しております。空き店舗を活用したスポーツ施設の設置推進については、市の産業振興部門においては考えておりませんが、貴重なご意見として参考にさせていただきます。
産業 4	学校終わりに遊びに行くのは柏。僕的には遊びたいとは思わないけれど、音楽を一人でやっている。バンドをやってみたい。音楽スタジオが茨城ではあまりなくて。個人の趣味・活動を支援できるようなスペース・場所があったらいい。	市において、個人の趣味・活動を支援できる代表的な施設としては、各地域の公民館や福祉会館、スポーツセンター等が挙げられます。施設によって付属施設は異なりますが、中には防音設備を備えた音楽室もあります。また、公民館を活動拠点とした様々な趣味・サークルの市民団体があります。その他、民間企業の事業運営ではありますが、駅前の商業施設内には、幅広い年齢層を対象としたカルチャーセンターもあり、多種多様な教室・講座が催されています。 市の産業振興部門として、新たに生涯学習を推進するような施設を設置する計画はありませんが、いただいた御意見・御要望は、商工会や駅前商業事業者にお伝えいたします。
藤代 歩道 1	議会を傍聴した。宮和田の歩道を整備してほしいという請願が上がっていた。「町内会・自治会から声は上がっていますか」と議員が職員に聞いて「ない」と答えた。それを受けて否決されてしまった。実際に議員も歩いてみてほしい。実際に調べて判断してほしい。安全第一でお願いしたい。	宮和田の歩道整備に係る請願については不採択ではなく、趣旨採択となっております。その後、ときわ台自治会から担当課へ改修要望が提出されたことを確認しております。現場を確認したところ、歩道に設置された平板ブロックが部分的に凸凹があり、段差が生じていることから、段差の解消の必要性を感じております。担当課では、アスファルト舗装による舗装打ち替えを準備しております。

	要望・意見	調査報告及び検討事項
藤代 歩道 2	藤代駅北口に保育園と歩道ができた。藤代駅北口のロータリーから藤代庁舎までの道をどうにかしてほしい。	<p>【その場の回答】</p> <p>仮のガードレール。設計を行う予算がついている。道路広い部分もあるが、歩道がなくて道を歩いている部分もある。</p> <p>【回答】</p> <p>平成30年度に北口保育園前に仮設のガードパイプを施工し、仮の歩道として供用しました。また、令和元年7月に車道にあった電柱1本を車道外に移設いたしました。令和元年度予算で北口保育園前から蔵前交差点までの歩車分離を目的とした道路設計を行います。この設計に基づき令和2年度以降に工事を予定しております。</p>
公園 1	とがしら公園の周りにある柵が錆びて壊れている。何度か職員に伝えて修繕をしてももらった。もっと予算をつけて安全な公園を。	公園施設については、毎年、管理者による定期点検を行っています。今後も継続していき、安全な公園づくりを行います。
公園 2	<p>公園の整備に関して。</p> <p>①（他市と比較して）公園あることはあるが小さい。公園を広く整備してほしい。緑も。イスが欲しい。トイレがないのが苦しい。高齢化もあるし、公園をしっかり整備してほしい。予算は相当かかるのか？</p> <p>②とがしら公園に行ってみたがトイレ汚かった。使う人のモラルも育てていくべき。「トイレをつくってみんなでキレイに使いましょう！」というまちづくりをしていくべき。居心地のいい公園の在り方を考えていくべき。</p> <p>③公園のトイレはいろんな層にとって便利だとは思いますが、犯罪のスペースとして使われる可能性も。そういう検討も含めて答えを出してほしい。</p>	<p>【その場の回答】</p> <p>①かたらいの郷のトイレ設置に2,000万円かかった事例もあります。また、緑地公園のトイレが2回燃やされている。公園が200カ所超。ゆめみ野・とがしら・緑地公園等しか大きなものはない。トイレをつけてほしいという要望もありますが、狭くてつけられないケースもあります。</p> <p>③犯罪が減るよう、公園全体で大きな木も最近は植えないようになっています。</p> <p>【回答】</p> <p>①公園維持管理に関する予算は令和元年度当初予算額で約1億6,600万円となっております。</p> <p>②公園のトイレについては、近隣公園や比較的大規模で大きな運動施設がある公園など、長い時間滞在が見込まれる公園について設置しています。</p> <p>③公園のトイレに関しては、とがしら公園トイレは建て替え時、向原公園トイレは新設時に、犯罪抑止効果も含めて、トイレ周辺を撮影するように防犯カメラを設置しています。</p>

	要望・意見	調査報告及び検討事項
環境 1	<p>駅前タバコを吸うスペース。煙でも健康被害がある。ガラスはあるが煙が広がっている。バスに乗る前にいっぱい吸っている人がいて、息を止めて通っている。密閉された喫煙所をつくってほしい。</p>	<p>【その場の回答】 法律的に屋根を設置しなければいけない。きちっとした建物にする必要も。</p> <p>【回答】 喫煙所の設置については、吸い殻のポイ捨てが非常に多く対応に苦慮していたこと、さらには歩行喫煙も多く「望まない受動喫煙」を防止するため設置しました。平成30年の健康増進法の一部改正により、屋内の喫煙については様々な制約が課せられることとなりましたが、屋外については「周囲の状況に考慮する」ととどまっております。高額な密閉型の喫煙所の設置には、非喫煙者の理解も得にくいことから、今後も「取手市まちをきれいにする条例」に定める「市民等は、公共の場所において歩行中に喫煙をしないよう努めなければならない」とした、他の人に迷惑をかけないというモラルやマナーの基本に立ち戻り、喫煙者自身が自発的に喫煙マナーを向上させるような環境を作るため、他自治体での取り組みや国などの動向を注視しながら、「望まない受動喫煙」防止のために、調査・研究、啓発活動を進めていきたいと考えています。</p>
環境 2	<p>地域でゴミ拾いの活動をしている。そういうのがあれば地域の交流にもつながって街もキレイになる。駅前の花壇に缶などが捨てられているのが目立つ。</p>	<p>【その場の回答】 取手一高・お祭りの若い人たちが定期的にゴミ拾いをしています。</p> <p>【回答】 平成30年度の地区清掃実績として79団体（地区）の方々が年に2～3回、清掃活動を行っています。駅前の花壇に関して、業者委託を行っていますが、地域団体（地域祭事若連・各団体クリーン運動・近隣高校生）などが率先して清掃活動をおこなっています。</p>
取手 松陽	<p>①松陽高校の後輩から聞くのが、遊ぶ場所が欲しい。（学校周辺に）レストラン・喫茶店もない。</p> <p>②ボックスヒル1Fにいろいろなお店が増えた。起業しやすい環境を整えてほしい。</p> <p>③小文間地域にコンビニが1つ。誘致を行ってほしい。（同趣旨他1件）</p> <p>④松陽・藝大をつなぐ道の現状について伺いたい。（同趣旨他1件）</p>	<p>① 取手松陽高校に隣接している東京藝術大学 取手キャンパス構内にある藝大食堂等の市民が集える施設をご利用できます。</p> <p>② チャレンジショップにて行っています。</p> <p>③ 現在、空き店舗の活用施策として、「空き店舗活用補助制度」により、空き店舗への出店者に対して、改修費や家賃の一部を補助しております。コンビニの誘致に関しては現在検討されておりません。</p> <p>④ 野球場の西側に通路がありますが、平常時には防犯の為、鍵がかかっています。</p>

	要望・意見	調査報告及び検討事項
桑原	桑原の開発計画を完成させてほしい。計画をつくって止めたら絵に描いたモチ。取手駅西口A街区の計画も進めてほしい。	現在、桑原地区開発および取手駅西口整備事業計画を進めています。
生涯現役1	厚生省の生涯現役促進地域連携事業は3年間という期限付き。残りの期間は2年半。生涯現役ネットを形式だけで終わらせないでほしい。 ●事業期間以降にも残るような、何かしらの仕組みを作ってほしい。	事業期間は令和3年3月までとなり、事業終了後は、事業の成果を踏まえながら、既存の地域職業相談室等を活用した仕組みを構築するなど、他の優良事例を参考にしながら検討していくとの担当課から回答がありました。議会としても今後の事業計画・スケジュールをモニタリングしながら、より良い継続の方法を担当課と話し合っていく所存です。
生涯現役2	生涯現役ネットの情報を知らない人がほとんど。入る入らないの問題以前に何をしているか分からない。でも、やりたいという方は多くいる。 ●情報を伝える手段・頻度は適切か。	広報とりでに連載枠を設けさせていただき定期的に情報発信を行う体制を整えたり、また専用のホームページ (https://toride-greenfield.jp/) やSNSやチラシ・民間の情報誌を活用して広報周知を図っているところです。更なる効果的なPRができるよう研究していくとのことです。 >上記の課題と連動しており、有機的に地域と結びついたネットワークシステムを構築することが求められていると考えます。 (備考) セミナーの一つで、QRコードで情報を入手する方法をレクチャーするといったことも行っています。
生涯現役3	生涯現役ネットで「農業・福祉・起業・小売りサービス」と4つの柱があるのに、3名の人しかいない。それぞれの柱への専門性もないのに、どうやって向き合っていくのか。 ●人を増やして、専門性を持たせてみては。	【その場の回答】 担当者3人が目標を共有していないと意味がない。どういう方向を見て進めていくかをしっかり話し合っただけのようにしたい。 【回答】 現在、事業統括員・事業推進員・支援員の4人体制で事業運営しており、それぞれ専門知識を有する人材ですが、あくまでも事業の全体運営と各分野への橋渡しの役割を担っています。 なお、人材については1年ごとに契約を見直しながら、必要な人材を確保していく方針であり、ミーティングはその都度しっかりしています。また、重点業種の推進については、担当課・関係団体との連携を基に、各専門家を招いてセミナーやスクールを随時企画して実践していくとのこと。 >議会としても重点事業に挙げられている分野で事業が進められるよう、担当課を含めて様々な課の職員と話し合いを行っていきます。

	要望・意見	調査報告及び検討事項
生涯 現役 4	<p>子どもの頃から地域に関わってこなかった方が地域に入るのは相当な苦労が必要。地域に関わる、ということをしてからでないと社会参画・ボランティア参加は無理。</p> <p>●地域デビューできない大人をデビューさせるには。</p> <p>●高齢者も大切だが、子どもたちのことも平行してやらなければうまくいかないのでは。</p>	<p>地域デビューできない高齢者の方のきっかけづくりとなるよう、気軽に参加できるようなシンポジウムや、あまりハードルが高くないようなセミナーの開催を企画していく。また、生涯学習（スポーツ生涯学習課）・地域への入り方（市民協働課）など類似の事業があり、推進協議会の中に入れていただいたので、これから連携強化を図っていくとのことです。</p> <p>>福祉関係施設（げんきサロン・いきいきプラザなど）とも重なる課題であり、産業振興課だけで解決できる問題ではないので、様々な団体や庁内の連携が大きなポイントとなると考えます。</p> <p>また、子どもだからこそいかに地域を意識して生活を送ることができるかという課題については、様々な部署をまたいでの課題と捉え、議会としても向き合っていくテーマの一つだと考えます。</p> <p>（備考）「地域デビューのすすめ」というセミナーが7月31日で開催されました。11月に再び開催予定とのことです。</p>
生涯 現役 5	<p>居場所がない高齢者もたくさんいる。</p> <p>●職場開拓を行うと同時に居場所作りもしてほしい。</p>	<p>高齢者の方が働きやすい環境が促進されるよう企業訪問を実施しており、求人情報も増加しつつあります。今後、さらに短時間労働や新たな職務の切り出しができるよう企業に対して提案していきます。また、いきいきサロン・お休み処などといった高齢者の方が気軽に立ち寄れる集いの場をつくろうという話も地域支え合いづくり協議会で提案されています。いろいろな事業と連携して充実させていくとのことです。</p> <p>>上記意見への対応と重複する部分もありますので、各課連携の基対応していける体制づくりをバックアップしていきたいと考えます。</p> <p>（備考）企業を訪問し、働きやすい就労形態（短時間労働・ワークシェアリング）を提言している。将来的にはそういった就労機会を切り出してもらい、情報提供を行えるようにしていく。</p>

	要望・意見	調査報告及び検討事項
生涯 現役 6	<p>格差社会ができつつある。定年後も働きたい人と、定年後も働かないと暮らしていけない人。働き口は多いけれども、業種と勤務日数などが自分の希望と合わないことも多い。仕方が無く働いている人もいる。ボランティアにも限界がある。</p> <p>●取手市在住の人が働きやすい、また、健康事業事業にも参加しやすい社会を作っていけるよう、予算配分を考えてほしい。</p>	<p>マッチングを行う上で、最低賃金がネックになっている場合もあります。お互い（雇用者・非雇用者）が納得して、それ以下の報酬で働くという形はあり得ると考える。</p> <p>>人材派遣業は登録料が必要であり、現在は同フロアにあるハローワークに委託していますが、営利でなければ登録のハードルが下がるケースもあると聞くので、検討を深めていきたいと考えます。</p> <p>（備考）高齢者の雇用状況に関しては、アンケート結果参照。雇用者意識調査を実施。市内に店舗・事業場がある10名以上の雇用している会社が229社ある中で73件が回答。</p> <p>(https://toride-greenfield.jp/about.html#report)</p>